教師のグループ学習に対する学習ニーズと心理的・環境的要因の関連
—教科と校種に着目して—

児玉佳一（大東文化大学）

キーワード：グループ学習，教師，学習ニーズ

問題と目的

協働学習に関心が高まる中，現職教師自身がどのような協働学習についての学習ニーズをもつかは明らかにされていなかった。児玉（2019 日心）では，協働学習に対する教師の学習ニーズについて検討したところ,算数･数学よりも国語の方が，中学校教師よりも小学校教師の方が全体的な学習ニーズが高いことを示した。本研究では，こうした学習ニーズについて，心理的要因や環境要因，個人の経験がどのように関連するかを検討する。

方　法

研究協力者　楽天インサイト社によって募集された小学校教師 400 名，中学校教師 353 名が調査に参加した。小学校教師は 200 名が国語，200 名が算数について回答した。中学校教師は 153 名が国語，200 名が数学について回答した。

調査手続き　オンライン質問紙調査を行った。学習ニーズに関する教示文は「グループ学習について，以下の項目の内容をどのくらい学んでみたい（知りたい）と思いますか」とし，全 24 項目への回答を求めた。この 24 項目は，協働学習における教師の役割を示した文献を参考にして作成した。特に Kaendler et al.（2015）が示した協働学習において教師に求められる５つのコンピテンシー（Planning：学習の構成，Monitoring：学習者の観察，Supporting：学習中の支援，Consolidating：まとめ，Evaluating：評価）を因子として想定した。その他，個人の経験として教員歴，グループ学習実施率（週のうちどのくらい実施したかを％で回答），グループ学習実施歴，心理的要因として協働学習に対するポジティブイメージ（６項目：高旗ら，2010 を基に作成），自律的学習動機づけ（６項目：三和・外山，2015; 西村ら，2010 を基に作成），環境要因として学習環境（15 項目：露口，2003 を基に作成），学校目標（協働学習に関する目標か）を尋ねた。

結果と考察

因子分析により因子構造を確認した後，５つの学習ニーズを目的変数,心理的要因,個人の経験，環境要因，心理的要因と個人の経験（校種・教科含む）や環境要因の交互作用項を説明変数とした多変量重回帰分析を行った。主な結果として，ポジティブイメージ，学習動機づけが正の関連，教職歴が負の関連を示した。さらに，教科と学習動機づけ，教職歴の交互作用を見ると，学習動機づけが強い場合は算数・数学においても Consolidating や Evaluating の学習ニーズが強くなることや，教職歴が長くなると国語においても Evaluating に対する学習ニーズが弱いことが示された。教職歴が長い教師ほど学習ニーズが小さい点は，経験的にこれらの観点について自分なりの方法論を形成できていると認識しているためだと考えられる。また，評価面の Evaluating は算数・数学においても学習動機づけの高い教師にとっては関心が強いことからも，評価に関する情報提供が求められていると考えられる。

付　記

本研究は JSPS 科研費（18H05792）の助成を受けて実施されました。

Table 1　多変量重回帰分析の結果

	Planning		Monitoring		Supporting		Consolidating		Evaluating	
	教科	校種	教科	校種	教科	校種	教科	校種	教科	校種
イメージ	.269 *	.266 *	.297 *	.289 *	.283 *	.276 *	.319 *	.310 *	.263 *	.263 *
学習動機づけ	.247 *	.247 *	.205 *	.211 *	.238 *	.241 *	.222 *	.219 *	.249 *	.246 *
教職歴	-.100 *	-.103 *	-.100 *	-.100 *	-.088	-.086	-.105 *	-.102 *	-.133 *	-.144 *
実施率	-.071	-.072	-.062	-.063	-.072	-.072	-.058	-.056	-.035	-.032
実施歴	.004	.005	-.002	.002	-.016	-.015	.009	.008	.002	.005
学校目標	.030	.037	.051	.062	.012	.020	.023	.029	.031	.043
学習環境	.054	.050	.036	.021	.065	.055	.024	.024	.023	.020
教科or校種	-.107 *	.048	-.110 *	.098 *	-.091 *	.080	-.078	.072	-.149 *	.043
イメージ交互作用	-.008	.008	-.031	-.008	-.024	.025	-.056	.006	-.021	.012
学習動機づけ交互作用	.075	.044	.078	.067	.091	.012	.134 *	.021	.117 *	.001
教職歴交互作用	.076	-.003	.069	-.031	.063	-.017	.059	-.025	.108 *	-.007
実施率交互作用	.027	.006	.044	-.001	.030	-.016	.041	.019	.010	-.013
実施歴交互作用	-.037	-.019	-.026	-.004	-.029	-.008	-.013	.003	-.039	.033
学校目標交互作用	-.025	.028	-.015	.026	-.009	.032	-.007	.051	-.016	.027
学習環境交互作用	.018	-.014	.034	.006	.005	.004	-.018	.022	.009	.040
R^2	.252 *	.236 *	.246 *	.237 *	.249 *	.237 *	.259 *	.245 *	.280 *	.244 *

* $p < .01$ 教科は国語を０，算数・数学を１としたダミー変数を，校種は小学校を０，中学校を１としたダミー変数を投入した。